

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名【新】中部山岳国立公園誘客プロモーション事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光国際部 観光国際政策課 サステイナブル・ツーリズム推進室 観光国際政策課 サステイナブル・ツーリズム推進係

電話番号：058-272-1111(内3915)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,000 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,000	0	0	0	0	0	0	0	10,000
決定額	10,000	3,948	0	0	0	0	0	0	6,052

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

「松本高山Big Bridge構想実現プロジェクト」発足後、中部山岳国立公園を含む松本市と高山市を繋ぐ地域が広域的な観光ルートの要となるよう、官民一体となった取組みが進められている。

ところが、令和5年度に続き令和6年度も新穂高ロープウェイの一時運休や路面崩落に伴う乗鞍スカイラインの通行止めにより、岐阜県側への来訪者数が減少しており、観光客数の回復に向けた取組みがより一層必要である。

(2) 事業内容

本県が取り組むサステイナブル・ツーリズムを軸に、中部山岳国立公園内の上高地、宿泊地としての奥飛騨温泉郷、そして地域の観光資源を一体的にブランディングし、その魅力をセットでプロモーションすることで同エリア内での滞在時間の延長や宿泊促進に繋げる。

- ・ランディングページ作成
- ・デジタルプロモーション
- ・WEBマガジン等発行
- ・インフルエンサー招聘 など

(3) 県負担・補助率の考え方

県内における観光産業の振興は県が率先して実施すべき事業であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	プロポーザル評価会議
旅費	123	費用弁償、職員旅費
消耗品費	32	事務用品等
燃料費	33	ガソリン代
会議費	5	プロポーザル評価会議
役務費	20	通信費等
委託料	9,735	プロモーション実施経費
使用料	20	高速代等
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」
- ・「岐阜県経済・雇用再生戦略」

(2) 国・他県の状況

- ・中部山岳国立公園は、環境省「国立公園満喫プロジェクト」の準モデル公園として選定されている。

(3) 後年度の財政負担

- ・新たな誘客対策の柱として継続的に取り組む必要があるため、後年度も継続。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・地域全域における事業であるため、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中部山岳国立公園（県内エリア）について、関東方面在住者をターゲットに上高地などの人気地域とセットで宿泊地奥飛騨温泉郷の魅力をPRすることで、来訪者の増加と地域の消費喚起につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①観光消費額		2,702億円	2,900億円	3,100億円	3,600億円	75.1%
②観光入込客数 (実数)		4,263万人	4,750万人	4,800万人	5,300万人	80.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 中部山岳国立公園エリアへの継続的な観光客の来訪や宿泊・周遊の促進を図っていく必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 中部山岳国立公園エリア及びその周辺地域への誘客は、一過性のものではなく継続的な取り組みが大切であり、引き続き、当該資源のプロモーション等に取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】